

1 編集委員会 谷口 信行

平成24年度は、雑誌出版に向け、委員会を開催し、7月には第1巻第1号を発行した。平成25年2月には第2巻第1号を発行した。

2 財務委員会 矢形 寛
なし

3 教育委員会 田中久美子

▶ JABTS学術総会におけるワークショップ企画

第28回 トリプルネガティブ乳がんを学ぼう

第29回 嚢胞様構造を有する充実性腫瘍

▶ 乳房超音波講習会開催(12回開催)

主催： 7回 北九州・大阪・名古屋・静岡・東京(2回)・栃木

共催： 5回 産婦人科乳癌学会(2回)

愛知乳がん検診研究会

対がん協会

全社連

対象： 技師対象 7回 医師対象 5回

受講者： 技師 332名 医師 209名

試験のみ 99名

▶ プレ講習会 開催(第28回総会)

▶ 講師研修会 開催(第29回総会)

1年間、当初の計画通り講習会を運営実施してきたが、運営のシステムや教材の見直し、試験における通信や採点などにおいていくつもの問題があった。これらの解決を試みたが、より検診に軸足を置いた乳房超音波講習会の準備が並行して開始されており、JABTS教育委員会主催として超音波講習会の開催を続けていくよりも、新しい講習会の開催に向けて力を結集していく方向が望ましいと考えた。

教育委員会としては、検診を主眼とした講習会を移管した後は、初学者のためのプレ講習会(初学者の場合には検診のための講習会を受けることを必要条件とする)や、診療に役立つ超音波セミナーを企画開催すべく、検討を開始している。理事会では、この報告と、講習会が持つ会計報告を行う予定である。

4 広報委員会 橋本 政典

▶ HPの改訂

乳腺・甲状腺ガイドラインバナー掲載

多施設研究の概要を掲載

学会名改称(日本乳腺甲状腺超音波医学会)によるHP更新

学会誌をHPに掲載

定款の変更を掲載

会費変更を掲載

▶ JABTSH運用規則を改訂(2012.07.25改定)

以下、2点を追加

1)学術集会HPから本会HPへのリンクの許可は必要ない。

2)学会誌のPDF版を載せる。

5 会則委員会 古川まどか

JABTS会則委員会は、JABTS理事会のもとに、理事会から諮問された各種会則に関する諸問題や検討事項を担当している。今年度の活動内容について報告する。

1. 各委員会内規の作成。

2. 委員会活動に関する細則の改正。

3. JABTS学会名称変更に伴う会則の変更。

4. 名誉会長、名誉会員、特別顧問等に関する細則作成。

5. 理事の任期、理事選挙に関する細則の改正。

6 国際委員会 宮川めぐみ

▶ ネパールでの国際交流

今回は平成25年2月20日～2月25日まで、ネパール派遣団第8班として計7名の方がネパールへ行った。今回はBATSON合同カンファレンスを開催して、日本からは乳癌の診断、治療の現状およびエラストグラフィや造影超音波など最新の知見を交えて発表した。ネパールからは主に甲状腺癌の現状と診断についての発表が行われた。

参加者のリスト：

高田悦雄(獨協医大超音波センター)

植野 映(筑波メディカルセンター乳腺科)

藤本泰久(立花病院副院長)

坂佳奈子(東京都予防医学協会がん検診診断部)

柏倉由実(三重大学医学部乳腺外科)

黒島 永(総合新川橋病院検査科)

中川美名子(岡山県健康づくり財団臨床検査科)

また、ネパールでの乳癌検診活動については、これまでは日本から持って行ったポータブル超音波装置を用いており、2年前はアロカ、1年前は富士フィルムの装置であったが、今回はポカラ市のアナンダ先生の病院で新しい超音波装置を用いて無料超音波検診を行った。また同じくポカラ市のFEWA CITY HOSPITALにて看護学生120人を中心に、乳癌についての講演と自己触診指導のやり方などをメインにしたピンクリボン活動を行った。

7 用語診断基準委員会 渡辺 隆紀

- ▶ JABTS BC-01研究：最終解析中 JABTS30で報告
- ▶ JABTS BC-02研究：プロトコル変更し，参加施設追加中
- ▶ JABTS BC-04研究：Feasibility studyほぼ終了し，来年度からObservational study開始予定
- ▶ JABTS乳房超音波診断ガイドライン改訂：現在進行中である。

8 甲状腺用語診断基準委員会 鈴木 真一

- ▶ 甲状腺超音波ガイドブック出版
福島県において行われている，県民健康管理調査：小児甲状腺超音波検査への支援を継続して行っている。

9 倫理委員会 森島 勇

- ▶ 第28回JABTS理事会(2012年4月20日，岡山)で倫理委員会が設置された。委員長には森島が指名された。
- ▶ 委員の選任と内規の作成を行った。
- ▶ 2012年10月7日に第1回倫理委員会を開催し，委員会のあり方の確認と副委員長の選出を行った。副委員長には，尾本きよか先生を選出した。
- ▶ 「利益相反に関する指針」倫理委員会案を作成した。2012年12月26日の臨時理事会にて利益相反委員会の設置を要請し，承認された。「利益相反に関する指針」の最終案は，利益相反委員会に委ねた。

10 新技術研究部会 椎名 毅

画像データベース化において，ファイル形式等のデータ仕様，ファイル名の付け方，フォルダ構造，個人データの処理法などについて検討し，研究用画像データベースのフォーマットを決めた。

11 フローイメージング研究部会 奥野 敏隆

用語診断基準委員会主導で進行中のJABTS BC-04 Feasibility studyにおいて，判定基準作成，評価法統一のための講習会開催，登録症例の撮像条件の評価を行った。その経緯を学術集会(第28回，第29回JABTS)，学会誌において報告した。また，以下の会議を開催した。

- ▶ 班会議：
 - 4月21日(岡山コンベンションセンター)
 - 10月8日(北九州国際会議場)
- ▶ JABTS BC-04 meeting(用語診断基準委員会と併催)：
 - 8月5日(JR東京総合病院)
 - 11月18日(東京都予防医学協会)
 - 12月16日(国立国際医療研究センター)

▶ 造影超音波ワーキンググループmeeting：

- 5月25日(東京品川，貸し会議室)
- 7月28日(大阪梅田，貸し会議室)
- 10月7日(北九州，貸し会議室)
- 10月27日(東京，貸し会議室)

12 検査技術研究部会 尾羽根範員

検査手技や装置の使い勝手および画質など，日常検査に密着した課題について取り組み，情報収集や活動内容の検討のため，第28回JABTS(岡山市)と第29回JABTS(北九州市)にて班会議を開催した。

画質に関連した企画としては，第29回JABTSにおいて「乳腺嚢胞を考える」という企画を開催した。嚢胞は頻りに遭遇する所見ながら多彩な像を呈して判断に迷うことも少なくなく，質的診断が困難で穿刺に至った症例を研究班員から収集し，研究班員および協力者で判読して読影ポイントなどを検討した。その概要は研究班報告として機関誌Vol.2, No.1に掲載した。

13 乳癌検診研究部会 角田 博子

1. マンモグラフィと超音波検査の併用検診における総合判定基準について，JABTS内部では，平成23年度にその内容がまとまり，JABTS総会にて発表し，半年の経緯でHPなどに掲載し，広く公開した。この案は超音波のみならず，当然ながらマンモグラフィ検診に大きくかかわってくることであり，平成24年度5月に開催されたマンモグラフィ検診精度管理中央委員会主催の指導者研修会にて，その経緯と内容，今後の見通しについて発表し意見を求めたところ，特に問題なく，その後，開かれた理事会において承認となった。内容については，日本乳癌検診学会誌2012.21(3)273-279に，「マンモグラフィと超音波検査の併用検診における総合判定——JABTS乳癌検診研究班からの報告」の形で，大貫幸二副部会長を筆頭執筆者として発表した。

2. 平成23年度に現在の超音波検診の要精査基準の改訂活動に着手し，24年度はこれを引き継ぐ形で活動した。腫瘍，非腫瘍性病変の両方に改訂を加えた結果をJABTS28で発表し，意見を仰いだ。その後，HPで広く公開中し，福島で行われたJABTS30での理事会で承認された。

14 インターベンション研究部会 位藤 俊一

超音波ガイド下のインターベンション手技を安全確実に行うための企画や提示症例において，診断に至る道筋「次の一手は」をシリーズ化して行っている。またJABTS開催時に「次の一手は」のケースカンファレンスを開催し，同時にテーマを決めてミニレクチャーを行っている。

15 精度管理研究部会 中島 一毅

▶ JABTS BC03小班：

予定登録数に近づいたが、データ解析センターの専門家に委託したところ、サンプルサイズの不足を指摘され、プロトコルの改変、研究期間の延長を行った。25年度中に集積できれば、解析、投稿予定である。

▶ エラストグラフィ小班：

昨年、エラストグラフィの分類案を作成、機関誌Vol.2, No.1に報告した。世界に先駆けて作成していたため、AIUM, EPFSUM, WFUMBメンバーからの打診もあり、意見交換を行った。現在、コンセンサス案を作成中である。

▶ 精度管理ファントム小班：

現状の精度管理ファントムの問題点について、数回のミーティングを行い、解析し、報告した。

▶ 背景乳腺の超音波診断に与える影響研究小班：

昨年JABTS28にてこれまでの研究成果を報告し、JABTS学会誌に学会記録として報告している。

16 バーチャルソノグラフィ研究班 中野 正吾

1) 活動報告

バーチャルソノグラフィ研究班はJABTS28にて承認され、JABTS29より活動を開始した。平成24年10月8日AM8:00～AM8:50北九州国際会議場2F21会議室Aにて第1回の班会議を行った。

班長は中野正吾(愛知医科大学)とし、班員は明石定子(昭和

大学)、磯本一郎(聖サンフランシスコ病院)、榎原雅裕(千葉大学)、佐竹弘子(名古屋大学)、枝園忠彦(岡山大学)、高橋麻衣子(慶応大学)、榎本法生(広島大学)、山本滋(山口大学)、吉田美和(愛知科大学：事務局)とすることを確認した後(高橋麻衣子、山本滋は当日欠席)、班長が司会を務め、議事進行を行った。

本研究班設立の趣旨について説明(乳腺超音波診断の向上を目指し、バーチャルソノグラフィの臨床的研究、機器の開発を行う。新たな画像診断体系を確立するとともに、学会・論文発表を通じて研究成果を国際的に発信することを目的とする。)が行われた後、バーチャルソノグラフィの乳腺画像領域における現状、今後の活動計画などにつき報告がなされた。その他、施設間での精度管理、次期学会における企画・演題登録、臨床試験に向けた準備を開始することなどが論議された。班員の負担軽減のため、全体の会議はJABTSの班会議にて行うこととし、必要な連絡はメーリングリストによるe-mailもしくはUSBの郵送により行うことを確認した。

平成25年2月、班員として植松孝悦(静岡がんセンター)に加わっていただいた。

2) 予算執行状況

平成24年度予算を使用し、研究班各施設におけるバーチャルソノグラフィの精度管理を行うためにファントムおよび音響結合用高分子ゲル(消耗品)を購入した。また臨床試験のデータ管理(環境整備目的)としてコンピュータ、ソフト(消耗品)を購入した。